

宝物はすぐそばに

校内研通信

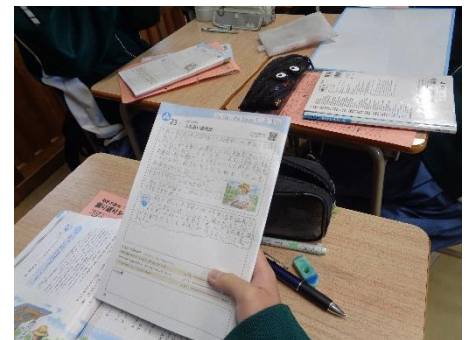
第40号

R7.12.16

発行者:校内研担当 仲村智

無人販売所は善意と良心と思いやりで作られる場所なんだね

12月16日(火)2校時、1年4組にて森山利江先生が道徳の授業を公開しました。本時のねらいは、一人ひとりがまわりを守ることで、安心して過ごせる温かな社会が実現できることを自覚し、規律ある社会をつくろうとする実践意欲を育てることです。授業では、学校生活アンケート結果の共有で本時の内容を自分ごととして意識させ、「無人販売所が成り立つために必要な事は?」という補助発問から「温かな学校生活を送るためにどうしたらいい?」という中心発問へと流れるような授業展開でした。利江先生の終始、生徒の発言を褒めて認めていく態度で生徒とやりとりを重ね、生徒は安心して発言しながら自然な問い返しで生徒の思考を深めていくというコーチングスキル、見習いたいものです😊。きれいに整理整頓された教室や机周り、勉強する環境が整った空間で生徒はすくすく成長していますよ😊。利江先生、素敵な授業をありがとうございました。



RS
みつけた!

本日の
キーワード

Teach よりも Catch

道徳科の授業で「話し合う」といいますが、児童生徒の発言に耳を傾け、「そうか!」と受け止めることによって、生徒の心は育つものです。道徳科の授業においては、教えること(teach)よりも、生徒の発言を受容(catch)し、共に考え、悩み、夢や感動を共有する授業者の姿勢が大切です!!

リーディングスキルは道徳教材理解の土台であり、思考を深め、道徳的価値の理解へと導くための駆動力となる内容把握の時間短縮: リーディングスキルが高い、またはデジタルツールなどを活用して内容把握を効率化できる場合、教材理解にかかる時間を短縮できます。

推論力・論理的思考力の育成: 中心発問に答えるプロセスでは、教材内の情報から登場人物の隠された思いや、書かれていない行動の背景を想像する「推論」のスキルが求められます。

多様な意見の引き出し: リーディングスキルを前提とした適切な中心発問(例: 登場人物の行動や判断の背景を考えさせる発問)は、児童生徒が多様な感じ方や考え方に触れる機会を生み出し、自分の考えを深めることにつながります。